

⑥ 42歳 新政府の役人となる

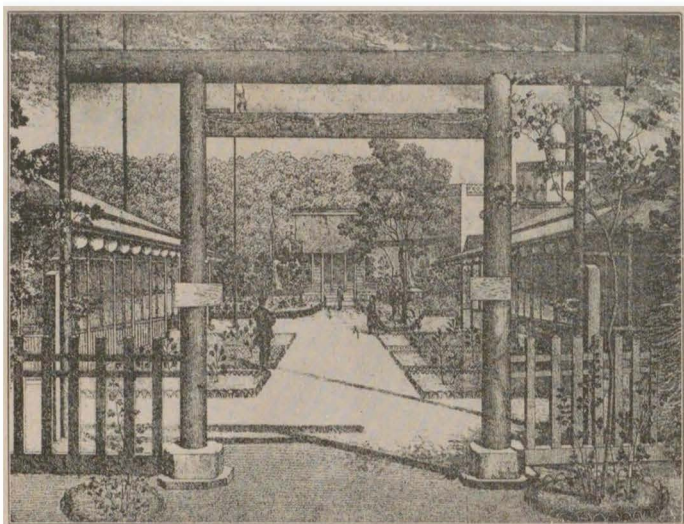
明治4年(1871)長^{なが}淳^{あつ}(権六から改名)は、明治新政府から殖産興業を推進する工^{こう}部^ぶ省^{しょう}勸^{かん}工^{こう}寮^{りょう}への出仕を命じられます。翌年に完成する葵^{あおい}町^{まち}製^{せい}糸^{いと}所の建築などを担当。同年中にはウィーン万国博覧会の一級事務官も兼任しました。

明治6年には万博参加のため渡欧、日本館館外の神社・楽^{がく}殿^{でん}・売店・庭園などの建築を監督します。また、万博開催期間中の余暇を利用し、養蚕や紡績などの進んだ技術を調査するため欧州諸国を訪問しました。

帰国後、内^{ない}務^む省^{しょう}勸^{かん}業^{ぎょう}寮^{りょう}では内^{ない}藤^{とう}新^{しん}宿^{じゅく}試験場での養蚕試験研究、群^{しん}馬^{まち}県^{ぐん}での新^{しん}町^{まち}屑^{くず}系^い紡^{ぼう}績^{せき}所の建設に奔走します(新町屑系紡績所の一部建物は高崎市に現存し、国の重要文化財に指定)。

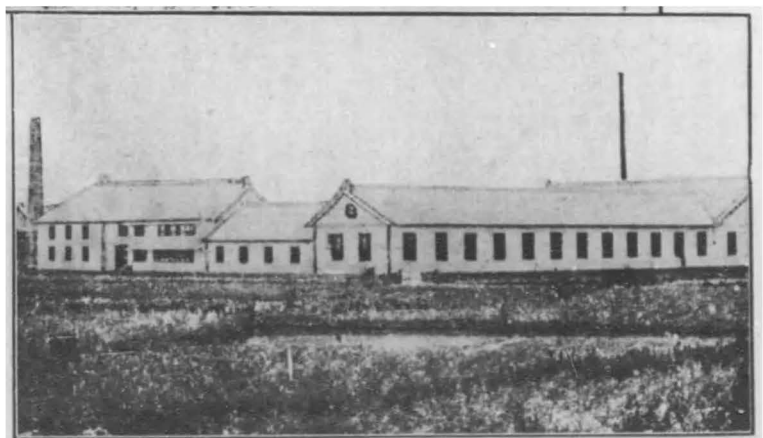
明治12年からは宮内省の養蚕御用掛として、青山御所御養蚕所での皇后御養蚕の指導にあたりました。同19年に57歳で非職となって以降も、殖産興業団体「万^{まん}年^{ねん}会^{かい}」の会誌上で養蚕指導の記事を執筆し、全国各地で巡回講話を行うなど、養蚕業の発展に寄与しています。

大正5年(1916)1月25日、肺炎により逝去。享年87。



奥国博覧会日本社園正面の景

『海外博覧会本邦参同史料 第1輯』博覧会倶楽部,1930より転載



新町屑系紡績所の外観

鴻巣久『絹糸紡績と屑物整理』蚕業新報社,1912より転載